

事業報告

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、三陸沿岸地域は甚大な被害を受けました。当社においても南・北リアス線の営業区間のうち3分の2が被害を受け、大半の収入が途絶えたばかりか、会社を取り巻く環境が激変しました。

当社の復旧には莫大な経費が必要となりましたが、国・県及び市町村の支援が決定したことにより、平成26年4月の南北リアス線全線の運行再開へのスタートを切ることができました。

23年度は、このような非常事態の中復旧への大きな使命を背負い、収支を少しでも改善するために、要員・経費等の大幅な見直しを実施してきました。

23年度の営業実績は、輸送人員で前年の65%減、運賃収入で69.7%減と厳しい状況となりましたが、全国からの温かい支援により旅行業・物販等の関連業務の収入が前年の134%増となり、経常経費は18.8%の削減が図られました。その結果、経常損失は▲169,481千円と前年に比べ13%損失増、当期損失が▲45,633千円となりました。

これらの結果、当期の概況は次のとおりであります。

表1 経常収入・経常利益の状況

(単位：千円)

項目	22年度	23年度	23年度	前年増減	同増減比	計画増減	同増減比
	実績	計画	実績				
運輸収入	322,534	88,200	97,718	-224,816	-69.70%	9,518	10.79%
運輸雑収	38,008	12,000	36,533	-1,475	-3.88%	24,533	204.44%
関連事業収入	71,881	64,030	168,745	96,864	134.76%	104,715	163.54%
経常収入	432,423	164,230	302,996	-129,427	-29.93%	138,766	84.49%
経常費用	582,373	447,890	472,477	-109,896	-18.87%	24,587	5.49%
経常損益	-149,950	-283,660	-169,481	-19,531	13.03%	114,179	-40.25%
特別利益	498,189	179,987	185,161	-313,028	-62.83%	5,174	2.87%
特別損失	362,983	60,990	59,248	-303,735	-83.68%	-1,742	-2.86%
当期利益	-17,058	-166,977	-45,633	-28,575	167.57%	121,344	-72.67%

2 営業の概況及びその成果

表2 輸送実績

(単位：人／千円／税抜)

項目	当期実績	前年実績	増減
乗車人員	296,586	851,456	-554,870
（久慈―陸中野田）	(184,996)	—	—
（宮古―小本）	(111,590)	—	—
運輸収入	97,718	322,534	-224,816
（一般個札）	(55,274)	(164,456)	(-109,182)
（定期券）	(36,475)	(92,698)	(-56,223)
（地元団体）	(1,273)	(16,062)	(-14,789)
（観光団体）	(4,696)	(49,318)	(-44,622)

■安全安定輸送への取組

- ・施設＝分岐器部分交換 北リアス線3か所実施
線路補修工事 北リアス線運行再開区間の軌道整備、軌道材料交換実施
- ・車両＝自動列車停止装置と制動装置改良（1両）
- ・指導通信式施工区間でのトンネル火災を想定した実車訓練
- ・当社「安全を考える日」に全社員非常呼集訓練

■支援の状況

- ・鉄道安全輸送整備事業補助金 53,130千円
- ・運営費補助金 128,389千円（設備維持補助金 112,287千円）
（車両移送・バス代替補助金 16,102千円）
- ・三陸鉄道駅舎活用事業補助金（釜石駅改修） 3,500千円
- ・北リアス線駅名看板リニューアル事業 2,540千円

■鉄道事業営業概況

（利便性確保）

- ・4月に罹災証明書提示での無料乗車措置を実施
- ・復興状況にあわせて4月、5月、8月、10月にダイヤの変更を実施し利便性の確保
- ・年間を通じ普通運賃の特別割引を実施
- ・岩手県北自動車(株)に小本駅～陸中野田駅間、岩手県交通(株)に盛駅～釜石駅間の代替バスの運行を依頼

（企画列車運行）

- ・早稲田大学の協力でジャストレインを運行（7/2）
- ・宮古市鉄道教室を実施（9/23）
- ・こたつ列車団体貸切 6回実施

(各種イベント)

- ・国土交通省主催で「がんばろう三鉄の集い」を宮古駅前で開催 (6/29)
- ・日本フィルハーモニー交響楽団協力によるミニコンサート開催 (7/6 盛駅、2/7 宮古駅)
- ・鉄道むすめをテーマにした北リアス線秋のさんてつ祭を久慈で開催 (11/6)
- ・南リアス線 3 鉄祭を盛駅で開催 (11/19)

(収益の向上)

- ・他の鉄道会社との連携で合同きっぷの販売を実施
いすみ鉄道・北総鉄道、近江鉄道、三岐鉄道、相模鉄道 4 件 1,731 千円の収益
- ・乗車券の通信販売を実施 14,000 千円の収益
- ・ヘッドマークオーナー募集を実施 8 社 2,400 千円の収益
- ・不通区間の駅の賑わいを図る目的の駅舎活用を実施
盛駅・釜石駅の運営を地元団体等へ委託
- ・「駅-1 グルメ」第 2 弾企画・発行
地域と連携し共同観光資源を育てるとともに観光客への情報発信を実施

■関連事業営業概況

(物産企画)

業務を見直し宮古・久慈の窓口販売、オンラインショップ及びイベント販売に特化し実施

- ・オリジナル商品の販売 きっと芽がでるせんべい、三鉄お好みせんべい、三鉄まごいかせんべいの開発・販売 収益 15,815 千円
- ・各種イベント等への出展及び百貨店での支援販売を実施 41 件
- ・中元・歳暮ギフトは主力商品に特化し実施 販売高 3,600 千円
- ・「復興祈願被災レール」の販売を 2 回実施 販売高 24,000 千円
- ・全国の企業において支援商品の販売を実施
クレディセゾン・東急ハンズ・キットカット・サークルK・徳間書店等

(旅行業)

旅行業事業は収益性の低い個人旅行販売を廃止し、団体旅行販売に特化した営業に転換。旅客営業部門と統合し、団体販売という共通項のもと収益確保に努めた。

- ・着地企画団体 被災地フロントライン研修の企画実施
147 件 3,018 名を案内 収益 10,669 千円
- ・教育企画団体 沿線の中学校修学旅行 6 校・294 名ほか、中学校の神楽同好会の宮城県被災地訪問公演、小学校スクールバンド全国大会遠征等取扱
- ・募集企画団体 恐山参拝団 50 名を催行

3 対処すべき課題 復興に向けて

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、当社のみならず三陸沿岸地域は甚大な被害を受けました。このような状況下で、平成 26 年 4 月の全線運転再開を目指して復旧 3 カ年計画を策定し、国等の支援を得て、平成 23 年 11 月 3 日より災害復旧工事に着手開始しました。

第 1 次復旧は順調に工事が進み、予定どおり平成 24 年 4 月に、陸中野田・田野畑駅間で運転を再開しました。さらに 2 次、3 次の復旧工事についても予定どおり着手しました。

私たちは、三陸鉄道の復旧が三陸沿岸地域の明日への希望につながることを信じ、気力を振り絞り、社員一丸となって再建に向け取り組んでまいります。

三陸鉄道は「地域の生活路線として、住民の足を確保する」・「観光路線として全国各地からおいでいただき、地域の産業振興・活性化に寄与する」を 2 本柱に、平成 26 年度以降の全線復旧後の「上下分離」方式の考え方に基づき収支均衡を実現するために、新しい将来を切り開く三陸鉄道の経営戦略を構築し、会社の維持存続を目指します。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 56,630 千円であり、その内容は次のとおりです。

- ・安全輸送整備事業 53,130 千円（車両改修）
- ・駅舎活用事業 3,500 千円（釜石駅舎改修）

5 資金調達の状況

東日本大震災津波による運輸収入の大幅な減少により経営が圧迫されるとともに、復旧関係の各種事業を進めていることから、資金調達として岩手県より短期借入を行いました。

平成 23 年度借入額 373,000 千円（平成 24 年 3 月 31 日岩手県に返済）

但し、岩手県への返済資金として岩手銀行より 200,000 千円を調達しました。

6 直前 3 事業年度の財産および損益の状況

（単位：千円／税抜）

区 分	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
	(第 28 期)	(第 29 期)	(第 30 期)	(第 31 期) ※当事業年度
営業収益	413,711 千円	423,532 千円	425,580 千円	249,497 千円
当期純利益	△39,794 千円	22,349 千円	△17,058 千円	△45,633 千円
1 株当たり当期純利益	△1,326 円	744 円	△568 円	△1,521 円
総資産合計	505,610 千円	632,085 千円	615,281 千円	1,540,049 千円

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- ・鉄道事業法による第1種鉄道事業およびこれに付帯関連する事業
- ・旅行業法による第2種旅行業
- ・物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町4番地
事業所 ・事業本部	同上
宮古駅	同上
施設管理部	久慈市川崎町10番20号
・北リアス線運行部	久慈市川崎町10番20号
久慈駅	久慈市中央3丁目38番2号
・南リアス線運行部	大船渡市盛町馬場4番4号
釜石駅	釜石市鈴子町22番5号
盛駅	大船渡市盛町字東町裏16番

※市町村等への業務委託駅 陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・小本駅
(休業駅：島越駅・田老駅・三陸駅・綾里駅)

9 従業員の状況

(平成24年3月31日現在)

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	56名	44.2才	21年8ヶ月
女 子	0名	—	—
計	56名	44.2才	21年8ヶ月

(注) 上記には、久慈市ふるさと体験学習協会への出向従業員1名を含んでいます。
この外に、臨時雇用従業員が13名及び(独)鉄道運輸施設整備機構より1名受入れ、
IGRいわて銀河鉄道に期間派遣(期間退職)で4名がいます。

10 重要な親会社等の状況

I 親会社等に関する事項

当社は、岩手県および岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.3%(22,600株)の出資を受けております。

※ 岩手県48%(14,400株)

沿線市町村19.3%(5,800株) 沿線外市町村8%(2,400株)

当社は、岩手県知事が会長に就任しております。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000株
- 2 発行済株式の総数 30,000株
- 3 当事業年度末の株主数 46名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	48.0%
宮古市	1,350株	4.5%
(株)岩手銀行	1,200株	4.0%
大船渡市	1,150株	3.8%
新日本製鐵(株)	1,000株	3.3%
東北電力(株)	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.2%
釜石市	650株	2.2%

III 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達 増 拓 也	岩手県知事
取締役副会長	山 本 正 徳	宮古市長
取締役副会長	戸 田 公 明	大船渡市長
取締役副会長	山 内 隆 文	久慈市長
取締役副会長	野 田 武 則	釜石市長
代表取締役社長	望 月 正 彦	
取締役	伊 達 勝 身	岩泉町長
取締役	上 机 莞 治	田野畑村長
取締役	柁 屋 伸 夫	普代村長
取締役	小 田 祐 士	野田村長
取締役	須 藤 薫	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大 井 誠 治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	坂 下 政 幸	事業本部長
監査役	田 口 幸 雄	(株)岩手銀行 常務取締役
監査役	宮 勉	(株)北日本銀行 代表取締役専務

(注) 取締役の宮館壽喜氏・加藤主税氏及び監査役永野勝美氏・佐藤安紀氏は、平成23年7月15日に退任しました。

2 取締役または監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,025千円
監査役の報酬はありません。

IV 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。